

まちの話題

あなたの声や地域、職場での話題をお寄せください。

☆役場総務企画課まで（電話 72・0331）



お兄さんと一緒にちまき作り！



責任感をもってコツコツと作業

この経験を将来に生かす

日野高校職場体験

高校生に働くことの大切さや責任の重さを実感してもらおうと、6月13日から16日まで、日野高等学校2年生が、県西部一円で職場体験をしました。これは、同校が総合学習の中で毎年この時期に行っているものです。

町内では、役場や保育所、事業所などで、実際の仕事を体験しました。ひのっこ保育所で学習した野口淳平さんは、「保育士の仕事に興味があり、保育所を選びました。仕事はきついけど、かわいい子どもに囲まれて楽しいです。将来は保育士の仕事につきたいです」と感想を話しました。

役場産業振興課で学習した石原幹大さんは、「初日は外で体を使う仕事をしました。暑かったけど楽しかったです。2日目、3日目は机での仕事で、精神的にきつかったです。やりがいがありました。卒業後は進学して、将来できれば公務員になりたいです」と抱負を話しました。



見事な書の数々が並ぶ



11の文化団体が出展

まちの芸術家の力作ずらり

日野町文化展

町内の文化団体による作品の発表の場として、町文化団体連絡協議会（植木正枝会長）主催の、第3回日野町文化展が、6月18日から20日まで、山村開発センターで開かれました。

会場となった大集会室には、絵画、陶芸、写真、書道作品、水墨画、生け花や石こけしなどの作品がずらり。訪れた人らは、作品の出来に感心しながら、一点一点ゆっくりと眺めていました。

また、初日には日野国際交流協会（小谷博徳会長）によるお茶などのサービスもあり、インドのお茶やフィリピンのお菓子などで訪れた人をもてなしていました。

鮎に魅せられた男たち

鮎マススターズ2006



アユが多いポイントに選手が集中

アユ釣り名人が腕前を競う第20回鮎マススターズ2006(ダイワ精工(株)主催)が、6月16日、町内の日野川で開かれました。

今回は、中国地方を中心に西日本各地から約150人の選手が参加し、制限時間内に釣れたアユの数を競いました。

日野町からは、瀬田匡志さん(安原)が、予選・決定戦合わせて29尾を釣り上げ、みごと第3位に、また、佐野秀樹さん(津地)も10位となり、共に30日に岐阜県で行われる西日本ブロック大会の出場権を手に入れました。

木のぬくもりを感じて

木のおもちゃ出前教室

子どもたちに、おもちゃづくりを通して木のぬくもりを感じてもらおうと、木のおもちゃ出前教室が、6月16日、黒坂小学校で開かれました。

教室には、組み木作家の小黒三郎さん(倉敷市)を講師に招き、5・6年生を対象に、動物をかたどった組み木のおもちゃのデザインから制作までを学びました。

5年生の坂本茉莉乃さん(上菅)は、「木のおもちゃは今までに何度か作っていて、楽しいです。糸のこの操作も慣れました。小黒さんには、親子の動物の形をつくるアドバイスしてもらいました。」と感想を話しました。

この日出来上がった作品は、図書館に展示されました。



ボランティアに教わりながら糸のこを使って

仕事のやりがいを見つける

日野中学校職場体験活動

職場で実際に働くことで生きる力を身に付けようと、6月21日から3日間、日野中学校2年生が職場体験活動を行いました。

2年生37人は、保育所、図書館、パソコンメンテナンスなど町内の14の事業所に分かれて、指導ボランティアの指導を受けながら実際の仕事を体験しました。コメリ日野根雨店(根雨)で働いた音田光一さん(高尾)は、「第1希望だったところで働けてうれしいです。主な仕事は、商品の整理ですが、思ったより大変でした。従業員の人は商品の場所を全部覚えていてすごいと思いました。自分が並べた商品をお客さんが買ってくれると、やった!と思います。将来どんな仕事につくのかはまだ考えていませんが、3日間働いて仕事のやりがいを感じました。」と感想を話しました。



商品の整理を手際よく



通学合宿の子どもたちに牛舎の説明も